



発行所
磐城日日新聞社
福島県磐城市湊5-1
電話代表387番
編集長 比佐不二夫
発行人



あす本議会再会 一破亂ある助役問題

磐城市第五回定例市会

磐城市第五回定例市会
四日目の本議会は十四日
午前十時から会議室に再
開されるが、去る五日來
各部委員附託の新年度
予算審議が委員長から報
告され承認を求め
第三回決算市会は開会勢
頭から質疑應答を活発に
行い歳出入二億一千萬元
をめぐって決算編成内容
に眞摯な検討が加えられ
ているが、各部委員審
議の結果から議案筋は原
案通り可決するのではな
いかと見ている
更に同日の本議会の幕切
りに長瀬元小名浜助役の

退職金問題が緊急動議案
として上げられる動きが
強く、早くも市民の注目
を集めているが、成行に
よつては議長不信任案も
豫想されて同問題はいよ
いよ大詰に迫られるに
至つた

説 國會議員を 踊らした助役問題

磐城市連青 会近く発足

地域社会の文化向上と青
年相互の団結による親睦
並に社会奉仕の實踐を目
指して一層の青年による
自主確立を圖らうと合併
三ヶ町村の各青年團役員
がこの稱小名浜助役青
年會と合併し磐城市連青
會と命名し、磐城市連青
會の結成の準備を進め期
待されている
その準備が十四日午後
七時より市中央公民館日
本間に江名、泉、渡邊の
青年團から結成委員各三
名が出席、連合青年會の
発会、運営などにつき具
体案を協議する

長瀬元助役問題は去る三
日の本議会で採決により
議案は一應これを白と
決議したが、これに対し
反對七議員、欠席二十四
議員の議員団は十四日
再会される最終定例本議
會に同問題を再度動議案
として上げする動きがあ
り、破亂は招かれまいと
議案筋もこれを認めてい
る
同問題を巡つて政治的に
壓力をかけ木村参議を通
じ市花市長の公文書によ
る照会を差し止めよう
自治行同答を押し付けた一
部の策動もあつて助役問題
は中央に飛び地元選出の
衆、参議員間に秘められ
た政治闘争にまで發展す
るといつた観相を露呈し
てゐる

鹿島は無競争と決定 選挙執行は泉地区のみ

十三日現在 磐城市農委選の動き
六日届出を締切つた磐城
市農委委員の立候補者数
は小名浜(定員十二名)
江名(同十名)、渡邊(同
十名)の三地区がそれ
ぞれ定員數で無競争とな
り鹿島十四名(定員十名
)、泉十六名(定員十名)

湯本公民館
運営視察
秋田の教委
秋田縣本庄市教育委員會
事務局の職員五名が、常
務市湯本公民館の運営状
況視察のため十三日來市
した

日朝親善に
映画鑑賞会
湯本公民館で
在日朝鮮民戦石城地連湯
本分會では、朝鮮停戦一
週年記念行事として日朝
親善の映画鑑賞会を、二
十六日午後七時より湯本
公民館に於て催す

海水客に
潮路号
磐城市小名浜駅では海水
浴シーズンに先がけ、シ
ーメン中の臨時列車「潮
路号」の運轉時間を発表
した
期間は七月十八日より八
月十日まで、月曜を除き
運轉となつており潮路號
列車は連日数千人の觀光
客を運ぶことであらう
時刻表は次の通り
平發 小名浜 永崎着
七、五八、八、九、〇
永崎發 小名浜 平着
一、二、三、四、五、六、七、八、九、〇

夏は招く豊間観光地へ

- ### 豊間観光協会
- 豊間役場
- 町長 遠藤 專
 - 助役 遠藤 菊次郎
 - 収入役 小野 英一郎

- ### 豊間議會
- 議長 永山 宗七
 - 副議長 遠藤 幸一郎
 - 総務委員長 鈴木 六助
 - 教育委員長 鈴木 一馬
 - 議員 大峯 敏太郎
 - 四家 義信
 - 箱崎 義三
 - 鈴木 道之助
 - 遠藤 光一
 - 山野 茂重
 - 鈴木 源九二門
 - 高木 安次郎
 - 堀越 厚賢
 - 遠藤 虎吉

- ### 豊間漁業協同組合
- 登記一般 永山 秀雄
 - 測量一般 豊間町大字豊間
 - 醤油醸造元 志賀 重術門
 - ミルクプラント 志賀 嘉幸



辨才天社務所

賢沼寺本堂工事施工者
吉田 助五郎

賢沼寺總代長
村上 正明

- 賢沼寺總代長
- 住職 永山 龜吉
 - 總代 小僧都 正明
 - 大平 多十郎
 - 比佐 辰之助
 - 山野 庄十
 - 遠藤 龜吉
 - 岩下 甚次郎
 - 岩下 忠幸
 - 箱崎 半右エ門
 - 鈴木 平司
 - 鈴木 五郎
 - 菅波 一郎
 - 大谷 藤一

